■健康科学部リハビリテーション学科カリキュラムマップ

リハビリテーション学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

社会人としての一般教養、人間性や倫理性を身につけ、また保健・医療・福祉におけるヘルスケアを担う専門職としての知識と技術を身につけ，卒業後に専門職として活躍できる実践力と自己研鑽するための研究能力を磨き，広く社会に貢献できる人。

(1)人間性

1. 対象者ならびにその関係者に対し，個人の尊厳と基本的人権の尊重に基づき配慮し活動できる人間性と倫理感をもつことができる

(2)専門性

2. 基礎的知識：基本的な医学的知識を用い，人体の構造・機能について説明できる

3. 専門的知識：一般臨床医学の知識を用いて，心身機能に関わる病因・疾病・障害について説明ができる

4. 応用的知識：基礎的・専門的知識を用いて，対象者の問題点，その原因を統合・解釈し必要な治療プログラムを立案する

5. 実践能力：それぞれの臨床実習ないで，評価，治療プログラムの立案，治療プログラムの実施を指導者のもと実践することができる

(3)社会性

6. 専門職として求められる役割とその責任を自覚することができる

(4)協調性

7. コミュニケーション力：様々な問題を抱える対象者ならび関係者の話を傾聴する。また，チーム医療をなす構成員の専門性を理解し，その意見を尊重しコミュニケーションを取ることができる

8. チーム医療：チーム医療の一員であり，他の専門職者と連携・協働しつつ、対象者の持つ医学的，社会的問題対する情報を共有し，目標を達成するため自分の役割と責任を担い行動できる

(5)創造性

9. 論理的思考力：心身機能に関する基礎・専門知識とともに，社会的側面をも捉え包括的に対象者の問題を分析することができる

10. 問題解決能力：対象者の問題を分析、解釈をすすめ，医学的・社会的アプローチを立案し，実践することができる

(6)主体性

11. 自らの知識・技術・態度を評価し、絶えず自己研鑽をすることができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係（◎特に重要、○重要、△望ましい）										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	人体の構成要素としての細胞・組織学を理解する。さらに、個体の運動器系を構成する骨格系（骨格・靭帯）および筋系を中心に学び、人体の主要な骨格筋、骨や関節の特徴や構造を知り、作用を理解する。	1. 体の構成要素である細胞・組織学について説明できる。 2. 個体の運動器系を構成する骨格・靭帯・筋についての説明できる。	○	◎	○	○		○			△		○
専門基礎科目	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ筋骨格系を踏まえ、動きを指令する神経系や、動きを感知する感覚器系について理解する。また、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および嚥下や排泄を含めた消化器系などについても理解を深めていく。	1. 内臓、脈管系、神経系、および感覚器系について、構造、作用、分布等を理解する。	○	◎	○	○		○			△		○
専門基礎科目	解剖学実習	リハビリテーションに必要な骨・関節・筋肉に関して、骨格標本と人体模型を使い、形態と構造および機能を確認する。	1）骨格および筋肉の部位について具体的な名称と身体における部位を説明できる。 2）主要な関節（肩・肘・手・股・膝・足）の関節構成体を確認し、各関節の解剖学的な特徴がいえる。 3）主要な関節における筋の走行を確認し、筋の起始・停止・神経支配・機能を暗唱できる。 4）体表解剖にて臨床に必要な身体指標の触診と、その名称を覚え説明できる。	◎	◎				○					◎
専門基礎科目	人体生理学	細胞レベルから器官、さらにそれらが互いに協同し合いより高度なシステムをなし生命は維持されており，これらを全般的にまなび，生命維持活動における個々の役割を理解し，病態学・障害学との関連を理解する。	神経系の構造と機能について説明ができる。 運動器の構造と機能について説明ができる。 呼吸・循環の構造と機能が説明できる。 消化・吸収・排泄に関する器官の構造と機能が説明できる。		◎	○								○
専門基礎科目	人体生理学実習	生体の生理機能に関し、実習を通して学ぶ。	運動時の生体反応を説明する事ができる。 神経系の解剖，生理について説明でき，神経伝導速度の測定理論が説明できる。 心電計を操作し，安静時の心電図を測定することができる。 スパイロを操作し，肺機能検査を実施することができる	○	◎	○								○
専門基礎科目	運動学Ⅰ	解剖学や人体生理学で学んだ知識を基に、身体における様々な運動や動作に関する基礎を学んでいく。	1. 身体運動のメカニズムを力学の観点より説明できる。　2. 様々な姿勢、運動、動作を基本用語を用いて表現できる。		◎	○								○
専門基礎科目	運動学Ⅱ	解剖学・生理学・運動学Ⅰにて学んだ身体の基本的な構造と機能の知識を踏まえ，各機能と身体運動の結びつきについて，自ら考え，説明できることを目的とする.	1. 1年次に学んだ解剖や運動学を基礎として,身体の運動に関する事象を多角的な視野で説明出来る. 2. 身体運動を担う筋骨格系の機能について学び,その機能と動作との結びつきについて考え,解剖学的・運動学的な用語を用いて説明できる.		◎	○			○				○	○
専門基礎科目	人間発達学	人間を理解する基礎として、胎児期から老年期に至るまでの、身体的・精神的・社会的な発達を学び、それぞれのライフステージにおける特徴を体系的に理解します。	1.　発達の理論の諸説と各種発達検査を説明できる。 2.　粗大運動と手指の微細運動の発達について説明できる。3.　認知・知的・心理の面の発達について説明できる。	◎	○						△	△		○
専門基礎科目	人間発達学演習	人間の生涯に和tる発達過程やメカニズムについて学ぶ。各ライフステージごとの課題を整理し、意味を理解する。発達検査、幼児期の遊び提供など実践演習を通して知識技術を習得する。	1。発達検査について目的および技術の理解と適切な解釈が出来る。 2. 集団活動技術を学ぶ。　3. 近代社会における権利擁護について理解する。	○	◎	◎	○		◎	◎	◎			○
専門基礎科目	臨床運動学	運動学やバイオメカニクスは人間の動作や運動を注意深く分析するうえで役立つ. 解剖学・生理学・運動学で学んだ内容を踏まえながら、動作や運動との関連性について考え、より臨床的な思考力を養う.	1. 運動学の視点から，臨床で良く目にする様々な疾患の事象，要因を説明できる. 2. 疾患に合わせた運動や現象を説明でき，訓練プラン作成における，根拠のある事象の機序を説明出来る.	△	○	◎	○		△	△		○	○	○
専門基礎科目	疾病と障害総論Ⅰ	病因としての生物学的、物理的、化学的な外因と内因としての代謝異常、遺伝子異常、加齢、性別などによる病理過程を学び、これらがもたらす炎症、腫瘍、変性などの病態と障害の関連を理解する。	1. 中枢神経疾患、運動器疾患、呼吸循環器疾患などの病態と心身機能について説明ができる。2. 療法士として専門的な病理志向的アプローチ法が立案できる。		◎	○	○				△		△	△
専門基礎科目	疾病と障害総論Ⅱ	医学的リハビリテーションの実践においては心身の機能的状態の評価が重要であり、療法士は臨床医学の中核である内科学の知識が求められる。高齢化に伴い多臓器疾患の合併が増加し、全身的な心身機能として障害の個別性を理解する。	1. 呼吸循環器系疾患、代謝疾患や内分泌疾患などについて疾患の症候、診断、治療および予後が説明できる。2. 全身状態の評価に基づいた問題志向型の個別性のあるリハビリテーション計画が策定できる。		○	◎	○				○		△	○

専門基礎科目	神経系障害とリハビリテーション	各種神経疾患の病態、症候と診断を学び、生活機能に影響する高次脳障害、運動感覚障害などを評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める	1. 神経系障害の評価とリハビリテーションについて理解し、説明できる	○	◎	◎	○						○	○
専門基礎科目	骨・関節障害とリハビリテーション	運動器の疾病や外傷による機能障害の病態、診断、治療過程を理解し、リハビリテーションにおける機能・構造、活動と参加の評価と対応を修得する。	1. 運動器障害について病因、病態と症状について説明し機能評価ができる。2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法を立案できる。		◎	◎	◎				△		○	○
専門基礎科目	内部障害とリハビリテーション	呼吸・循環・代謝の反応を運動生理学の観点から理解し，運動生理学的知識を基に，内部障害疾患の病態、障害、治療について学び、内部障害のリハビリテーションについて理解を深める。	呼吸，循環，腎臓，小腸，免疫，代謝系の生理学について説明する事ができる。病態理解のため必要は評価項目をあげる事ができる。一般的な運動療法の内容やADL指導上の留意点を説明することができる。		○	◎	○							○
専門基礎科目	発達障害とリハビリテーション	胎児期から人間は発達によって変化し続ける。小児医療の視点において、理学療法士や作業療法士が知っておくべき疾患の理解や障害の理解およびリハビリテーションについて理解する。障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境という側面から地域生活者としての支援の実際について紹介する。	様々な小児疾患の病態や病状について理解することができる。胎児期からの様々な神経系および先天的疾患、内部障害関連の疾患に加え、児童における精神疾患についても理解ができる。 また、障害児に対する療育や教育という視点からの制度や支援の在り方についても理解することができる。	○	◎	◎	◎			○	○			○
専門基礎科目	老年期障害とリハビリテーション	理学療法士や作業療法士にとって、高齢者を対象とすることの多いリハビリテーション医療の老化および老年病を理解することは重要である。障害の原因およびリハビリテーションを進める上での配慮事項などを理解する。	1. 老化に伴う身体・精神機能の変化および高齢者に多い各種疾患の概略を説明することができる。　2. 老化を考慮した診療計画を策定することができる。	○	◎	◎	○	△	○			△	△	○
専門基礎科目	精神障害とリハビリテーション	精神障害の国際分類、代表的な精神障害の原因と症状、経過、予後などについて学び、身体療法とりわけ薬物療法、精神療法、社会療法などの各種治療法の概略を学習する。さらに精神科医療における法制度についても理解を深める。	1. 精神障害の種類、症状、経過、予後および治療法について患者に説明できる。		○	◎	○					○		○
専門基礎科目	臨床心理学	リハビリテーション専門職として必要な知識として心理学の基本的事項を確認しながら、臨床心理学の概論として、歴史、精神医学との関係、その他治療過程で発生する可能性のある諸問題、心理的評価法や心理療法の諸技法について紹介する	1、心理学の基礎知識を理解し説明出来る。 2、臨床心理の基礎知識、アセスメント方法、介入方法について説明出来る		◎	○	△					◎	○	◎
専門基礎科目	リハビリテーションの理念と概要	リハビリテーションとは何か、その理念と心理社会的背景、医学モデル、国際障害分類、国際生活機能分類（ICF）、社会保障を理解する。	1. リハビリテーションの理念に基づいた保健、医療、福祉の在り方や思考の展開ができる。2. いわゆる「リハビリテーション・マインド」を修得し、今後履修する講義や実習における基調にすることができる。	◎					◎	○	○	△		△
専門基礎科目	リハビリテーション実践	臨床実習を前に、諸課題に対して障害の評価法、具体的なゴールの設定法、治療アプローチ、帰結の信頼性や妥当性の検討法を修得する。	1. QOLを目標とした包括的な視点から障害を評価し治療計画を立案することができる。2. チーム医療においてICFに基づいた病理志向的アプローチおよび機能志向的アプローチが実践できる。		◎	◎	○			△	△	○	○	○
専門基礎科目	公衆衛生学	公衆衛生学では現在の日本人の健康状況に関する資料を読み、健康に関連する生活習慣、生活環境の安全性、食品保健と栄養、感染症対策、母子・精神障害者・難病の患者に対するヘルスサービス、学校保健、産業保健などの制度内容について体得する。	1. 公衆衛生の用語を理解し、説明できる。 2. 健康にかかわる多種多様な事象を公衆衛生の視点から読み解き、それに対する自らの考えを述べ ることができる。	◎		○			◎	○	△	△		○
専門基礎科目	保健福祉論	急速に進行した高齢社会における健康課題を把握し、これに的確に対応するための政策の展開について理解を深める。	理学療法士または作業療法士として必要な保健医療福祉の基本的な制度枠組みについて自分の言葉で説明できる。また、地方公共団体の保健医療福祉計画の概要についても自分の言葉で説明できる。	○					◎	◎	◎	◎	○	○
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅠ	基礎的な態度・姿勢・能力を養うため種々の演習を通して，問題発見と解決する力や，有効なプレゼン力を身につけることなどを目標とする。これらの学びを通じ，学生生活を円滑に送る諸力のみならず，社会人となる上で求められる諸力の基盤を構築する。	1. 適切なコミュニケーションがとれる 2. 学習スタイルを獲得し、知識を定着ができる 3. 自己の課題を発見し、主体的に問題解決にむけ行動できる　4. リハの視点から地域の問題に関心を向け取り組むことができる	◎					△	◎		◎	○	○
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅡ	リエゾンⅠで学習した問題解決の手法やプレゼンテーション技術などを用いて、グループワークごとにテーマを決め（プロジェクト学習）にPBL手法を併用して、学習を実施していく。また、コミュニケーションスキルについても、ワークショップを通してトレーニングを実施していく。	1. 自ら獲得した知識やスキルを実際に活用し、成果や効果につながる能力を習得し、課題で生かすことができる。 2.「わかった・知った」などの認知から、「伝える・表現する」精神運動技術能力を高め、能動的に学ぶ姿勢を（情意領域能力）を身に付ける	◎				◎	◎	◎			○	◎
専門基幹科目L群	卒業研究	作業療法研究法の授業をもとに実証研究（実験・調査・文献・事例研究）を実際に勧め、研究の成果として口述発表・ポスター発表並びに論文を作成することができることを目的としている。	1. 実践的に研究活動の流れを経験しながら、研究の流れをグループで推し進めることができる 2、研究の成果物として研究発表並びに論文の作成することができる	◎	◎	◎			◎	△	◎	○		◎
専門基幹科目A群	作業療法概論	作業療法の意義と作業療法士の役割を知り、作業療法の多様性を理解する。歴史、定義、医療・福祉・保健分野での実践を学ぶことで作業療法の過去、現状、今後の発展などについて学ぶ。専門職を目指す学生としての意識を高め、「作業療法とはどのような仕事をするのか」という疑問に答えられるようにする。	1、作業療法(定義、実践領域、対象、具体的内容など)について説明できる	○	◎	◎	△		◎	○	◎			○
専門基幹科目A群	作業科学Ⅰ	作業療法実践の基礎学問として作業科学を位置付けている。作業科学では、人と作業と環境の関係から人間の健康を考える基本的な視点を学び、作業の重要性に関して説明できる事を目的としている。	1. 人と作業、環境と健康の関連性を説明することができる 2、作業療法の基本的考え方（理論）いついて説明することができる	◎	○	○	△	△	◎	○	○	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業科学Ⅱ	作業科学Ⅰで学んだ基本的な視点・理論と生活機能モデルの関連性を整理し、作業の有用性を生活機能や生活行為との関連から説明できること、並びに作業を用いた介入法について理解することことを目的としている。	1. 作業科学Ⅰで学んだことと評価実習で経験したことの統合し対象者にとっての作業の意味を説明できる（事例検討） 2、作業遂行および作業ニーズの評価法と介入法を説明できる 3. 生活に関連する作業を列挙し、意味づけをすることができる	◎	○	○	△	△	◎	○	○	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業Ⅰ（健康と作業）	作業活動のプロセスと同時に作業療法を行う際の視点を学ぶ。また、ひとの健康的生活を維持するためには、作業は必要不可欠なものであることを念頭に、作業活動の特性および治療的意義についての理解を深める。	1. 作業療法手段として用いられる代表的な作業（活動）について、使用される道具の管理、基本技術を身につける 2. 上記の作業を実際に、自分自身で行ったり、他の人に指導できる 3. 作業が健康に及ぼす影響に関して説明できる	◎	◎		○		△	△	△			◎
専門基幹科目A群	作業Ⅱ（生活と作業）	人間の作業行為に関する生物的，心理的，社会的，文化的関係の知識と技術の体系を習得するために，ひとが生活を維持するために必要な代表的作業の講義・実習を通して，作業の知識，技術，応用工夫，指導法を学習する	1. ひとの生活と作業活動の治療的意義について理解する. 2. 作業活動の特性を分析する視点を理解し，説明できる. 3. 作業活動に必要な工程・技法を体験し説明できる。	◎	○		○		◎	△	△			◎
専門基幹科目A群	作業の評価と実践	ひとと作業活動の関連、諸科学と作業療法の結びつきを理解し、作業療法の手段として適用するための作業分析方法、指導法を学習する。さらに作業分析を行い、その治療的応用について学ぶ。	1. 人の動きに関して生理学・解剖学・運動学等の視点で分析することができる。 2. 人の動きと環境との関係性について分析することができる。 3. 行為について心理的・社会的・文化的等の視点で分析することができる。	◎	◎	○	△		○	△	△	◎	○	◎

専門基幹科目A群	作業療法評価学総論	2年時以降の作業療法評価学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎であり、作業療法評価の基本的な概念や生活機能の評価の基本的な視点の理解と面接や観察といった全領域に共通する評価技術の経験し、評価の重要性と視点に関して説明できることを目的としている。	1．評価の概念と評価法の概要を説明できる。 2．面接や観察といった全領域に共通する評価技術を実習を通して理解し、説明できる 3．身体障害領域の評価技術の一部（関節可動域およびバイタルサインなど）経験し、習得する（学生同士で検査法を再現できる）	◎	◎	◎			◎	○		◎	△	◎
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅰ	感覚・運動器、神経機能に関する基本的な検査法を学び、実施方法を習得するとともに、その目的を理解し対象者へ適応する際の基本的な留意点を学ぶ。	①検査目的，方法，留意事項を理解し，説明できる. ②健常人を被験者として，適切に実施できる. ③検査方法に関する疑問を教員に質問することができる.	○	◎	◎			○			○	○	○
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅱ	作業療法評価の目的を理解し、面接、行動観察、検査法等の、1）精神機能評価、2）高次脳機能評価の具体的方法を学ぶ。その際必要となる対象者への配慮、留意点などについて実際に考えながら演習を行う。さらに、評価手段の実施によって得られた情報のまとめ、解釈などの学習も深める。	1、高次脳機能評価法と精神機能評価法を実施できる　　2．記録や評価のまとめを適切に記載することができる	◎	◎	◎	○		◎	◎	◎	◎		◎
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅲ	各ライフステージの中でも小児期から成人期までに焦点を当て、作業療法評価及び支援の視点とケアマネジメント的視点を学習する。小児期では特に感覚統合的視点の評価を学び、青年期から成人期には就労支援について学ぶ。さらに、疾患および領域ごとの就労支援の評価および支援の在り方についても学ぶ。	1．感覚統合の理論を理解し、評価および支援の在り方を理解できる　　2．青年期および中途障害者の就労支援について理解する事ができる	◎	○	◎	◎	○	○		○	○	◎	○
専門基幹科目A群	作業療法の介入と適用	作業療法の対象となる代表的な疾患や障害特性、回復段階の異なる複数の事例について作業療法評価をまとめ、それらを基に作業療法の介入の可能性について議論し検討する。演習と発表を通して、学習を深めていく。	1、、作業療法プロセス理解し、事例について評価のまとめをICFで行うことができる 2、事例についての作業療法計画を立案できる 3、パワーポイントを適切に用いて発表できる	◎	○	◎	◎		○	◎	△	◎	○	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅰ	身体障害領域における作業療法の役割やプロセスを理解すると共に、実践で活用されている心身機能の改善に有効な理論や概念に関して、その実践的技術を含め、介入の有効性を理解できることを目的としている。	1．身体障害領域で用いられる基礎解剖学等の知識を持ち、言語化できる 2．身体機能を改善する理論や実践的技術を一部経験する 3．整形外科疾患を中心とした作業療法の介入の視点を学び、説明できる	◎	◎	◎	◎	△	◎	○	○	◎	○	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅱ	身体障害領域で関わることの多い主要な疾患（脳血管疾患、神経筋疾患、脊髄損傷等）とその障害について学ぶ。また、作業療法の適用の理論、介入の原理や治療技法の原則について学ぶ。	1．脳血管疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を説明できる 2．神経筋疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を説明できる 3．脊髄損傷の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を説明できる	◎	◎	◎	◎	○	◎	△	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅲ	各疾患の症状・障害の特性、経過、介入の流れ、考慮すべき事象など、学生自身が調べながら他の学生に教授する方法（Problem Based Learningの学習法）により理解を深める。	1．作業療法身体障害領域で対象となる疾患について理解し、作業療法評価・介入、理論の適応に関して説明できる 2．病気や障害特性を考慮し、必要な情報を収集し、資料としてまとめ、プレゼンテーションできる。	○	◎	◎	◎		◎	△	△	○	○	○
専門基幹科目A群	精神障害と作業療法学Ⅰ	精神障害の作業療法の諸理論や介入モデルを取りあげ学習する。それらの学習を通して精神障害者の社会適応が可能となるような作業療法を考える視点を養い、作業療法士としての対応を考えられるようになる。	1.精神障害に対する作業療法の諸理論について理解し、説明することができる。 2.他者の話を傾聴することができる。 3.理解できない事を自分で調べることができる。 4.調べても分からない時は教員に質問することができる	○		◎			◎	◎		○	△	○
専門基幹科目B群	精神障害と作業療法学Ⅱ	精神障害領域で対象となることが多い疾患についての作業療法の実践過程と具体的方法について学ぶ	1．精神疾患と生活障害との関係を理解し，その特徴と回復段階に応じた作業療法について説明，実施できる 2．臨床事例の評価，計画立案について，具体的に説明，実施できる	○	△	◎	◎		○	△	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	発達障害と作業療法学	発達障害児・者に対する作業療法は、不自由な一部分にのみ焦点を置くのではなく、発達過程における将来的予測を立てながら、長期的視点に立って経過を追っていかなければならない。対象児を取り巻く家庭環境を視野に入れた対応が必要である。疾患ごとの特性を理解し、作業療法介入の支援を学ぶ。	1．正常発達における基礎知識について述べる事ができる 2．発達期における主な疾患の概要を述べることができる 3．疾患ごとの特性を説明できる	○		◎	◎	◎	△	△	△	△	◎	○
専門基幹科目A群	老年期障害と作業療法学	高齢者を心身機能面とライフサイクルや生活歴も含めた全人間的な視点で理解し、高齢者とその家族の生活の質を高めるために果たすべき作業療法について学ぶ。	1．高齢者の心身特性を理解し、環境を含めて生活の全体像をとらえ、説明できる。 2．予防と自立支援という観点から高齢者に対する作業療法の役割が理解できる。 3．情報収集や評価に必要なコミュニケーション技術の基本を身に付ける 4．評価に基づいた作業療法立案ができる。	○	○	○	◎	○	◎	○	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	高次脳機能障害と作業療法学	高次脳機能の障害や治療についての基本的知識を学ぶとともに、種々の評価技術を学び、対象者の生活行動上の問題を検討しながら作業療法アプローチの基礎を学ぶ。	1．各障害の概要及びリハビリテーションについてを説明することができる 2．各障害の作業療法について，グループで事例検討を行い，レポートにまとめることができる			◎	◎		○	△	○	○	○	○
専門基幹科目A群	生活技術学	障害を抱えながらも主体的生活を送るための支援技術として作業療法士が活用する生活や代償技能、環境調整などに関する評価と支援の視点に関して学び、実際に評価技術を身につけることを目的としている。	1．日常生活の概念と評価法を理解し、評価法を実践できる 3．生活を分析することができる 2．実践的技術として精神障害と関節リウマチによる障がい者への支援の視点を学び、説明することができる	◎	○	○	○		◎	○	○	◎	○	◎
専門基幹科目A群	生活技術学実習	障害別に日常生活活動の各動作の特徴と援助方法を理解し、対象者が必要とする日常生活活動や社会活動を支援するための評価、介入方法、指導方法について学習する。	1．授業で取り上げる障害の生活上の困難さを理解し，説明できる 2．各障害モデルを自身で模擬的に演じることができる 3．各障害に対する生活活動の基本的な援助技術を習得し，模擬患者(学生)に対し援助することができる	◎	◎	◎			◎	△	△	△	○	○
専門基幹科目A群	作業療法支援実践	その人らしく地域で暮らすための多様な課題や期待について意識を高め，その解決策について理解を深める．地域生活支援における問題や課題について体験を通して学ぶことを目的とする．	1．施設指導者の下で作業療法学専攻学生としての役割と責任を全般にわたって果たすことができる 2．節度ある行動を心掛け，各施設の規則についてはこれを遵守することができる	◎	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	テクノエイドと代償学	対象者に応じた生活環境の調整による作業療法介入を学ぶ。参加の視点から、リハビリテーション機器、義肢装具、補装具、自助具等の基礎知識を学ぶと同時に作成技術を習得する。	1．義肢や補装具等について、その構造や特性について正しい知識を修得し、説明することができる 対象者に応じた作業療法介入について、理論と役割を説明できる 3．装具を製作する技術を習得し、実際に作成することができる。	○	◎	○	○	△		◎		○	○	◎

専門基幹科目A群	地域作業療法学Ⅰ	地域で連携に基づいた包括的な作業療法支援を提供できるために、自らが地域の課題へ問題意識を持ち、問題解決技能を高めていく必要性を学ぶ。	1. 地作業療法の現状と視点を理解し、説明できる 2. 在宅生活を援助する作業療法の役割を理解し、説明できる 3.住宅改修の内容と障害適用について理解し、説明できる	○	△	△	◎		◎	○	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	地域作業療法学Ⅱ	ケアマネジメントの手法を用いて分析、ケアプラン、作業療法士の役割や課題について理解を深める。地域生活における人の生活状況を理解し、障害の有無によらず生活を創造する（参加）支援を行う必要性を認識し、学習する機会とする	1. 環境という視点で、社会資源の活用について述べることができる 2. 自助具の処方、作成方法についての説明することができる 3. ケアマネジメント手法を用いて、障害者のライフプランを構築することができる	○	△	△	○		◎	◎	◎	◎		◎
専門基幹科目A群	作業療法支援実践	その人らしく地域で暮らすための多様な課題や期待について意識を高め，その解決策について理解を深める．地域生活支援における問題や課題について体験を通して学ぶことを目的とする．	1. 施設指導者の下で作業療法学専攻学生としての役割と責任を全般にわたって果たすことができる 2. 節度ある行動を心掛け，各施設の規則についてはこれを遵守することができる	◎	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業療法研究法	作業療法士の研究活動の意義とその基本的な研究の流れや、研究デザイン、研究計画の立案、文献検討、データの収集方法とその解析方法、研究の公表方法を理解し、卒業研究等の研究活動で活用するための知識と技術を身に着けることを目的としている。	1. 研究の意義と実際の流れを説明することができる 2、研究に関連する用語・研究方法を理解し、研究計画を立てることができる 3、情報処理の方法を経験し、PCを活用した情報処理ができる	◎	○	○			◎	△		○		◎
専門基礎科目A群	作業療法総合特論	4年間学習した知識と技術について、基礎・臨床医学系領域を統合した知識および専門領域の知識として定着させる。	1. 専門基礎分野科目および専門分野科目の知識を理解し、課題の中で活用できる 2. 実践的演習および確認演習等において60％以上の正解率に到達することができる	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	◎	◎	◎
専門基礎科目C群	ボランティア実習A	早期の体験実習として，医療従事者に必要な対象者への基本的姿勢およびコミュニケーションを学び，態度や礼儀，対応についてお互いに学び合い，社会人および職業人としての自覚と資質を高めることを目的としている。	1. 社会人および対人援助職に就く者として必要な対象者への適切な態度および礼儀を理解し、行動できる。 2. 作業療法士としての基本的姿勢および言語的非言語的コミュニケーションをとることができる。	◎					◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目C群	評価実習Ⅰ	当該施設におけるリハビリテーションや作業療法士の役割と機能を理解することと実習生としての基本的態度や資質を身につけ、対象者への検査や評価の一部を経験するすることを目的としている。	1. 実習施設でのリハビリテーションと作業療法役割と機能をレポートにまとめることができる 2. 実習生としての基本的態度や資質を身につける、当該施設で行動することができる 3. 対象者への検査や評価の一部を実施することができる	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
専門基幹科目C群	評価実習Ⅱ	臨床実習施設において3週間の評価実習を実施する。評価実習Ⅰで学んだ経験を基に、更に作業療法士としての役割や責任について学ぶ。臨床実習指導者のもとで情報収集、面接や行動観察、種々の検査法を実施し、対象者の状態像や障害像を考慮した作業療法計画立案を経験する。	1、対象者のへ評価計画を立案し適切に実施できる　2、対象者の評価をまとめることができる 3、対象者の作業療法計画を立案することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目C群	実践（総合）実習Ⅰ	評価実習ⅠとⅡでの経験を踏まえ、実習指導者の指導や援助のもと、実際に施設や病院で対象者に関わり、作業療法の一連の流れを学ぶ。その中で作業療法士の役割や態度を含め専門職としての使命を学ぶ。	1、対象者の評価及び介入を経験し、その意義を理解し、レポートにまとめることができる 2. 現場で経験した内容を記録し報告することができる 3. 専門職としての態度や知識・技術を補完するよう行動することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目C群	実践(総合)実習Ⅱ	臨床実習施設で8週間の総合的な実習を実施する。作業療法評価を基に、実習指導者の指導を受けながら作業療法計画を立案し実施する。作業療法士としての資質を高め、専門職としての知識・技術・態度を深化し統合する機会とする。加えて対象者の生活を重視した作業療法を考え実施する機会とする。	1、対象者のへ評価計画を立案し適切に実施できる。　2、対象者の評価をまとめることができる。 3、対象者の作業療法計画を立案すし適切に実施できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目C群	実践演習Ⅱ	評価実習で経験してきた内容を振り返るとともに、各自の課題を明確にし、改善のために取り組みを行う。実習終了後には、学生が経験した事例について討議しながら評価や介入の意味、有用性に関して議論の機会とする。	1. 実習中のマナーとコミュニケーションを身につける 2. 作業療法の介入のプロセス（評価・介入・経過、再評価等）に関して学内授業で学んだ基本的な知識や技術を総合的に身につける	◎			◎		○	◎	◎	△	△	○
専門基礎科目C群	実践演習Ⅲ	実践（総合）実習Ⅱに先立ち，作業療法の介入プロセスに関して，総合的な確認を行う。また，これまでの臨床実習を振り返り，課題を明確にし，改善のための取り組みを行う．実習終了後には，学生が経験した事例について介入の意味や有用性に関して議論し，「事例報告レポート」としてまとめる。	1. 臨床実習に向け，各グループで計画した事前学習の目標を達成する 2. 実習後，経験した事例を「事例報告ﾚﾎﾟｰﾄ」としてまとめることができる	○			◎		◎	◎	◎	◎	◎	○
専門基幹科目C群	医学英語	解剖学などの基礎医学系の英語表現や臨床医学の中で用いられる英語表現、さらに作業療法、理学療法の専門領域の英語表現を学び実際に使用できるようになる。	1. 実戦で使用する基礎医学や臨床医学の用語を英語で覚え、記録や日常会話（実習）の中で活用できる 2. 医学英語を理解し、英語の文献等に関心を持つ	△	◎	◎			◎	△				◎
専門基礎科目C群	地域生活と住環境	対象者の「参加」をテーマに，具体的な事例や自身の生まれ育った地域，住まいなどを題材に，対象者の住む地域および住環境について理解を深める．	1. 学生自身が生まれ育った地域の社会資源を列挙できる 2. 学生自身の住まいについての環境評価ができる 2. 障害モデルを想定し，大学キャンパス内の環境評価ができる	○			◎		◎		○	◎	◎	○
関連科目	特講A	作業療法およびリハビリテーションに関連するトピックスについて学び、総合的発展的な能力を培う。	1. ターミナルケアにおける作業療法の役割について説明できる 2. 災害時おける作業療法の役割について説明できる　3. 授業で取り上げた作業療法における実践を基に、作業種目やその作業の意義について説明できる	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎